Here Now Bestopia
ベストピア Bestopia
第448号
2024年06月
号
パリ通信
第150号

あの「冷やし中華」の味を求めて

今月の1日、卒業して60年を迎える「D組クラス会」に出席しました。60年間お世話をしてくださった方々に深く感謝をします。この継続は、もしかしたらギネスブックに載るのではないだろうかとさえ思います。出席者は26名（その他にクラス担当教師の奥様と御令息、3名の方の奥様方を含めて総勢31名、欠席者は22名、物故者は23名）でした。
日本人男性の平均寿命は2018年で81.25、現在推定では丁度82歳です。
日本人男性の健康寿命は72.2歳ですから私たちは恵まれています。
82歳の平均余命は7.75歳で統計数字的には90歳まで生きられると計算されます。
命の計算を人間はすることは許されません。お任せすることですが、人間の欲望はそれを超えて計算したくなります。私自身は体調から考えてもう十二分に生かせて頂いていると思いながらも2030年迄は生かせてくださいと祈っています。2030年は歴史的な年になる予感がします。

「D組クラス会」では毎年3分間スピーチがあります。もたつくのは迷惑ですから、私は原稿を作成して出席しました。その内容は次の通りです。

３分間スピーチ原文

この日吉の懐かしい校舎で記念すべき60年を迎えるD組クラス会を企画してくださったこと感謝です。私が大学に入って最初に感動したのは、この学生食堂で1960年6月1日に生まれて初めて食べた「冷やし中華」の味でした。価格は40円（街中より30％安い価格）でした。
今、冷やし中華の街中の値段は800円から1000円くらいですから約20倍になっています。1960年の私たちの授業料は年間30,000円で4年間不変でした。この年の大学卒の初任給は10,800円です。授業料は大卒初任給の3ヶ月分でした。今年の授業料は約100万円で、1960年と比較すると33倍になります。大卒初任給は22万円で、1960年の22倍になります。4.5ヶ月分が授業料に相当します。（私立大学の平均年間授業料は150万円です。）教育費の負担が家計を圧迫しています。ここにいる私たちは非常に恵まれた経済環境をくぐって、戦争体験することなく生きてきました。ラッキーな年代と言えます。

なんとも雑駁な話ですが、行間を述べてみたいと思います。

(1)「冷やし中華」の味を求めて

①大学に入って最初に感動を受けたのは6月1日まさに64年前の今日学生食堂で食べた「冷やし中華」でした。5月下旬から宣伝の旗が上がってどんな食べ物、どんな味かと期待してその日を迎え、学食にひた走りました。この頃関東の味に馴染めず美味しいものが食べたいという欲求が頂点に達していたようです。その頃の学生食堂は木造のバラックでしたが、料理を作ってくれるおばさんとは話ができるくらいの距離で親しみがある場所でした。おばさんに「初めて食べるんです。」と大阪訛りで注文しました。おばさんはニコニコしながら「美味しいですよ」と自慢の笑顔で手渡してくれました。
「美味しかった。生まれて初めて食べ、生涯忘れることのできない味付けであった」
「あの甘酸っぱい出汁にカラシを絡めて食べる清涼感」私はその虜になってしまいました。値段は40円、市中では60円位でした。
学校に行かない日には街中で何度か食べたのですが、どれも、学食の味ではなかった。がっかりする度に学食の40円の冷やし中華が私の体に染み込んでしまいました。
悲しいことに3年生からは学校の場所が東京になってしまい、その味は微妙に変わってしまいました。その味を求めてわざわざ日吉校舎の学食に足を運びました。こうして在学中はなんとかその味と共にありなんとも言えない満足感がありました。

2年後位に大阪でも冷やし中華の看板がかかるようになって、帰省のおりに試みましたが学食の中華冷やしの味には程遠かった。
卒業後も夏になるとあの看板に惑わされてお店に入り、出る時はいつも失望感が重なって、遂に諦めと同時に冷やし中華が嫌いになって、夏になるとお店に出る冷やし中華の看板を見ると憎らしくなってしまいました。

②今から20年位前（卒業して40年位）、ミスター・ドーナツが突然、冷やし中華を売りだしたのです。ドーナツと冷やし中華の組み合わせは私にはダブルハッピーの印、だが期待は禁物、裏切られると反動が大きすぎる。しかし、手を出さないと落ち着かない。おそるおそる私はお店に入った。そして震える手で冷やし中華の器をとったその時の感じは、いけるかもしれない。なぜならシンプルなスタイルが美しかった。じっくり眺めてカラシを絡めて箸をとった。「これだ！」と私は叫びそうになった。40年前の恋人に会ったような気分であった。単品で300円位だったと思う。そして私はミスター・ドーナツの常連客の一人になったのです。冷やし中華とドーナツと美味しいコーヒーの3点セットが私を幸せな気分にしてくれました。40年の時を超えてのあの味との再会です。

③しかし、流行を追う時代にあって同じメニューは長続きはしない。ミスドからその味が消えてしまった。その後10年位してセブンイレブンで冷やし中華の新メニューが出ました。
これも期待せずに買い求めて開封するのももどかしくラップをとり剥がし、カラシ袋を切って絡め、一味食べて、飛び上がったのです。あの味に90%近づいていたのです。350円位だったと思う。しかし、残念なことに私が冷たいものを受け付けなくなってしまっていまい、頻繁に食べることはできず、真夏の暑い日に食べる楽しみとしています。

⑵「あの学生食堂」跡で冷やし中華のイメージにのせて振り返ったこと。

①私たちが入学した1960年（昭和35年）は日本史において画期的な転換点にありました。
政治的には5月に自民党が日米新安全保障条約を強行採決したことによって学生を中心とする安保反対デモが全国に広まった。多くの市民もデモに参加、東京大学生、樺　美智子さんの死亡、社会党委員長浅沼稲次郎の刺殺事件は記憶に新しい。新安保は自然成立。
経済的には12月池田内閣が所得倍増論を決定した（10年以内に国民の所得を2倍にするという計画、政府発表では7年間で達成した）
在学時代には1962年キューバー危機、1963年ケネディ大統領暗殺事件を報道から学び冷戦時代を経験しました。

②私たちが卒業した1964年（昭和39年）4月の大卒初任給は20,000円となり4年間で倍増した。私たちは池田内閣の政策の恩恵を在学時代にいち早く受け取っていたのです。そして10月には東京オリンピックで国内の勢いはエネルギーに満ちていた。

③私たちが新入社員として社会に目を向けることもできなかった時代には、ベトナム戦争が始まり、国内では70年安保闘争があり、抗議デモが闘争化して大学は長い間教育機能を失ってしまった。日米安保条約は再び自動延長となった。

④1970年、大阪万博、私たちは中堅社員となり大いに活躍、多くの人が海外勤務を経験するようになった。私自身も初めての海外研修をサンフランシスコで受けることになり、4ヶ月の研修後ロンドン、ジュネーブ等を経由する旅の恩恵を受けました。1ドル360円の時代で日当が5ドルの時代、米国での散髪代は4ドルでした。1971年にドルショックで変動相場制への移行をうかがわせることになった。

⑤1972年8月カシオ計算機が電卓（カシオ・ミニ）を発売、価格は12,800円（大卒初任給4万円）。このお陰で税理士試験に電卓の持ち込みが可能になった。私が購入したのは1972年の春、普及前のシャープの実験器だったと思う。価格は8万円を超えていた。
性能は2時間の充電で2時間使用可能というリスキイものであった。（この件について現在ネット上には載っていないのは不思議なこと）私は1973年夏に簿記と財務諸表に初挑戦した。使用可能時間が2時間だったので、午前中の簿記の試験に1時間、午後の財務諸表の

試験に1時間を当てる戦略であった。1時間使用すると熱を持つのでそれを冷やすために氷を包んだタオルを用意して昼休みを過ごした。算盤では合格する自信は皆無であった。電卓許可のお陰で今の私があることは驚きと感謝である。

⑥1975年3月大阪で税理士の登録をするも営業の見込みはなく、8月に南足柄の借地に家を新築することを決め移転、10月に知らずしてパワハラ会社に就職、私には幸いなことにこの間に二度のオイルショックあり、その度に原料の調達が困難になり、二度のアメリカ、テネシー州メンフィスに出張旅行ができ、２度目の帰り1979年8月にアメリカの空の上で辞職届を書き屈辱と忍耐の勤務を終わりにして、東京地方税理士会に再登録するも、収入の見込みはなく、自分が得意とする技能を発揮して学習塾「ベストピア」を開設、これが大当たり、一度は塾経営を専業にしようかと思った。1980年大学生を二人を雇用して時間を作り、妻と21日間かけてアメリカとカナダに旅行という大冒険もできました。

⑦1980年から87年にかけて塾を経営しながら賃金体系の大御所の楠田　丘先生に師事しその理論とノウハウを学び、中小企業に確固とした賃金体系を導入しようと努力した。賃金体系には評価が必須と感じ、公正な評価のために心理学を学んだ。実践的な心理学としてその道の権威であった岡野嘉宏先生の門下生となった。そのようにして独自の評価を含めた賃金体系を全国に広めるために行脚した。こうして顧問先が全国に出来始めた。
顧問先の中にイタリアの会社と合弁する会社があり、2年に一度本社ボロニアに旅行できたことは望外に嬉しかった。

⑧1991年（平成3年）50歳から花が開き始め2006年65歳迄充実した職業人生を謳歌できた。この間３人の税理士を独立に導き、衰えを感じ始めて辻・本郷税理士法人と合併して引退の道を敷き70歳まで社員税理士として勤務しながら南足柄市の会計監査委員、南足柄市再生委員会賃金部会部長の職を頂き、自由に発言しそれぞれの場で貢献できたことは感謝です。すべてに時があることを恩師から知らされたことも大きな動機です。恩師は一言「もういい加減に厚子さんを自由にしてあげなさい。」二言はなかった。私一人では経営する自信はなかった。私はスタッフに恵まれ支えられて27年間の職業人生が祝された。

⑨2011年（平成23年）税理士免許を返上して挨拶回りの途中、ある社長が急逝、後継者は定まっておらず、その会社のビジネスモデルを知るものは私一人であった。弔辞を読み上げながら道が示されるのを感じた。ここは引くわけにはいかない。葬儀の翌日創業取締役から指導を頼まれ、ある青年を社長に任命して彼と共に売上を2倍の会社に育てあげた。これはドラマチックであり痛快でもあった。2023年8月迄業務監査役として社長教育に携わることが許された。私が学んだことを総合的に発揮できた時期であった。育成の完成は手を引くことであると常々思っていたので予告なく私は会社を去った。

⑩2023年9月から念願叶って「最上のわざの生活」に入った。再び、恩師に恵まれ素晴らしい導きを得ている日々を送っています。加えて、まだ私を必要とされる場が与えられ、最も得意とする評価の仕事をさせて頂いている。社会への窓はまだ閉まっていない。守ら

れ、備えられ満ち足りた日々、そんな時に日吉の学生食堂に入ったのです。冷やし中華の味をいつも忘れずあの清涼感ある味付けを私は自分の人生に付けたいと思っています。

パリ通信・第150号

ノルマンディー上陸作戦

1944年6月6日「ノルマンディー奇襲上陸作戦」から80年が経つ2024年6月6日。朝から抜けるような青空が広がるノルマンディーの浜で上陸80周年記念式典が行われた。

4年に渡るドイツ軍占領下にあったフランスを解放すべく、アイゼンハワー総指揮の下、連合軍がシェルブールからル・アーブルを結ぶノルマンディーの5ヶ所の浜「ユタ」「オマハ」「ゴールド」「ジュノ」「スワード」に奇襲上陸した有名な戦いである。

ドイツ軍を撤退させるには大西洋岸から攻めるしかなく、「ノルマンディー上陸作戦」の2年前1942年8月「デイエップ上陸作戦」が実行されたが、事前にドイツ軍が内容を把握しており、デイエップ作戦は連合軍大敗退で無惨に大量の血が流れた。

その敗北に学んだ「ノルマンディー上陸作戦」は、細心の配慮と秘密裏に計画された。イギリスから一番近いカレーの港に見せかけのゴム製戦車を配し、上陸地がドイツ軍に知られないようアメリカの地名「ユタ」「オマハ」と名付けられた。アメリカ、イギリス、カナダ、ベルギー、ポーランド、オランダ、デンマーク、リュクセンブルグ、ノルウェー、チェコ、ギリシャの兵とパラシュート兵15万6千人が6月6日朝6時から上陸を開始した。

イギリスに亡命していたド・ゴールの精鋭部隊177名がイギリスの制服にフランスベレー帽でイギリス兵と共に上陸した。6月3日イギリスを出航した連合軍艦隊は英仏海峡の悪天

候で一旦引き返し、5日夜に延期、6日早朝から5ケ所の浜で戦闘が始まった。上陸を待つ兵士たちは船酔いに苦しみ、30kgの物資と銃を背負って波に呑まれ溺れる兵士、岸に到達する前に塹壕で待ち構えるドイツ軍に銃殺される兵士、浜は一面の血の海と化した。オマハビーチに上陸したアメリカ兵34250名中3000名が命を落とした。ユタビーチに上陸したイギリス兵は1465名の死者を出し、連合軍は6日の上陸だけで1万が戦死、ドイツ軍も同じく1万を超える戦死者を数えた。上陸を援護するため、フランス空軍とイギリス空軍はノルマンディー空爆を強化した。空爆でカーン、サン・ロー、バイユーを始めノルマンディーの多くの街が跡形もなく破壊され、上陸後始まった熾烈な内地戦の犠牲になった市民が2万人を超えた。上陸から多大な犠牲を払いながらも7月にはシェルブールが開放され、連合軍はカーン、オルレアンと東に進み、8月25日パリを解放した。フランスが終戦を迎えるのは翌1945年5月8日だが、「ノルマンディー上陸作戦」が終戦へと導いたのである。

オマハ・ビーチに上陸するアメリカ第2歩兵師団

式典には「ノルマンディー上陸作戦」に参戦し生きて帰還した連合軍兵が招待され、生きた証言は感慨深いものがある。上陸は怖くなかったかと言うインタビューに対して「17歳で上陸作戦に参加し今日で死ぬかも知れないと思った。一年前から周到に訓練し、たとえ隣の兵が倒れても立ち止まらずに前進せよと言われていた。その指示に従った」。別のベテランは「ボートを降りて海に入り最初に見たのが海に漂う若いアメリカ兵の死体だった。陸に引き揚げたいと思ったが自分が前に進むだけで精一杯だった。80年経った今もこのアメリカ兵を忘れられない」。

戦争体験の傷は一生を通して癒えず、これだけ無数の命を犠牲にした事実にも関わらず今日なお戦争が続いていることに心が痛む。

カナダでは「赤いけしの花」が戦死者を悼む象徴だと知った。第一次世界大戦中、カナダ人軍医として参戦したジョン・マックレイ(John McCrae)(1872-1918)の詩で知られ、心臓のある左胸に血の色である赤いけしの花を付けるそうだ。マックレイはベルギーからフランスにかけてのフランドル戦に従軍し、戦後フランスで亡くなった。フランス大西洋岸の戦場となった野には春になると一面に赤い無数のけしの花が咲き、一つ一つの花が犠牲者の魂に喩えられた。戦争を生きた人がこの世を去っていく今、その歴史を後世に伝えていくことの大切さと義務を知らされる。（古賀順子記）

関連記事

（天声人語）ノルマンディー上陸８０年

2024年6月7日

ナチス・ドイツに占領されたフランスで、海の向こうのラジオ放送に耳を傾けていたレジスタンスの活動家らは、その夜、内容に息をのんだ。「さいころはテーブルの上にあります、さいころはテーブルの上に……」。待ちに待った友軍の上陸に備えよ、という暗号だった▼翌朝、仏北西部ノルマンディーの海と空は、米英などの艦隊と航空機に埋め尽くされた。第２次大戦の戦況を大きく転換させた「史上最大の作戦」。きのうで上陸から８０年がたった▼国際秩序を踏みにじり、領土の拡張という己の欲望を満たそうとする人物が現れたとき、世界はどう対抗すればいいのか。２１世紀になっても、同じ問いを突きつけられている▼１０年前のノルマンディーでの式典は、ロシアによるクリミア併合のわずか３カ月後のことだった。いまとなっては違和感もあるが、そこにはプーチン大統領も招かれ、各国首脳と会談を重ねた。「力ずく」の愚かさに気づくよう願ったのを覚えている。だが、そうはならなかった▼あの時、世界がもっと強い態度でロシアに臨んでいたら、その後の悲劇は起きなかっただろうか。「選択と結果」は複雑に入り組みながら歴史をつむぐ。道がどこに続くのか、歩く者にも見通せない▼それでも、人間の未来を、さいころを転がすように運に任せるわけにはいかない。さいころを意味する英語ｄｉｃｅ（ダイス）は名詞ｄｉｅの複数形。ウクライナでガザで、同じ綴（つづ）りの動詞「死ぬ」がきょうも強いられている。 2024年6月7日 5時00分